

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

日本臨床外科学会国内研修に参加して

熊本大学大学院生命科学研究部消化器外科学

松本 嵩史

私は、日本臨床外科学会の2022年度の国内研修制度を利用させていただきまして、2023年2月8日から2月21日までの2週間を長崎大学移植・消化器外科に国内留学する機会をいただきました。まず、このような素晴らしい機会を提供してくださいました、日本臨床外科学会並びにご許可をいただきました熊本大学大学院消化器外科学の馬場秀夫教授、そして快く受け入れてくださり、とてもcomfortableでpassionのこもった素晴らしい時間を提供していただきました江口 晋教授をはじめ、原 貴信先生、曾山明彦先生、日高匡章先生、移植・消化器外科学の教室員の皆様方に厚く御礼申し上げます。

今回、日本臨床外科学会の国内外科研修の研修施設は92施設の中から選択することができました。その中で、研修の選択肢として消化管外科、肝胆膵外科、乳腺外科、小児外科、呼吸器外科、心臓血管外科に分かれています。私は熊本大学大学院消化器外科学の肝胆膵グループに所属しておりまして、16施設ある肝胆膵外科の施設の中から長崎大学移植・消化器外科を迷わず選択させていただきました。といいますのも、私は熊本大学の卒業になりますが、卒業後の初期臨床研修を長崎県の大村市にごぞいます、独立行政法人国立病院機構長崎医療センターにて研修させていただきました。その研修の際に、様々な科で多くの長崎大学の先生方に手技や臨床のいろは、さらには臨床研究の大事さまで学ばせていただきました。初期臨床研修期間中は先輩、後輩含めて2年間で70名近くの研修医の先生方と共に切磋琢磨させていただきました。その後、私は外科を志す際に、母校である熊本大学の消化器外科に入局させていただきました。しかし、研修医の当時、長崎大学の移植・消化器外科をとっても魅力的に感じ、教室の先生方からも強く勧められまして、最後まで悩ませていただきました。江口 晋教授をはじめ、教室員の方々はとても熱心で、ひたむきに外科と向き合っている姿を研修医の時に感じておりましたので、今回このような機会をいただきました時に、外科医として長崎大学移植・消化器外科にて研修させていただけることは望外の喜びでした。

早速、研修初日から生体肝移植が予定されており、心して参加させていただきました。研修当日の朝、江口教授にご挨拶して間もなく、英語の術前カンファレンスから始まり、チームの一員として名前が呼ばれた際は、身の引き締まる思いでした。手術に関しては、ドナーと、レシピエントの手術それぞれに入らせていただき、間にはドナーの肝臓のバックテーブルの流れまでをご教示いただきました。One teamで肝移植に取り組まれている姿に興奮し、手術後に帰宅してもしばらく眠れませんでした。それからの2週間は肝臓外科を中心に研修させていただきましたが、大変濃厚で、まさにあつという間でした。日々行われるカンファレンスも肝胆膵のみならず、消化管・乳腺・小児外科と様々な領域のディスカッションが飛び交い、術前はしっかりと準備し、術後はしっかりと振り返りを徹底した内容はとても参考になりました。手術に関しては、腹腔鏡下肝切除、ロボット支援下肝切除の手術に入らせていただきまして、Da Vinci Xiのassistantのcertificateを取得しておりましたので、ロボット支援下手術の助手も経験させていただきました。2週間の中で肝臓の手術以外にも、ロボット支援下のPDや、腹腔鏡下の膵体尾部切除の手術などを、時間を見つけては見学させていただきました。その他にも生体肝移植術を希望されているご家族の生体肝移植を受けるにあたってのICにも参加させていただきました。ドナーおよびレシピエントの候補の方への丁寧な説明および肝移植が施行されるまでのステップの確認は大変勉強に

なりました。ご協力いただきました移植コーディネーターの辻看護師にも重ねて御礼申し上げます。私は、熊本大学では現在大学院生3年生で基礎研究に従事しておりますので、個人的に興味のある大学院生のリサーチカンファレンスにも参加させていただきました。研修医時代の同期が研究に向き合っている姿勢に自分も負けてはられないと発奮いたしました。さらに、丸屋安広先生には産学連携のAMEDに採択されている低分子化合物によるヒト肝前駆細胞（CLiP）を用いた肝硬変治療の更なる推進および応用に向けた新たな研究計画の草案の一部をディスカッションさせていただきました。様々なリソースを駆使した立案は大変勉強になりました。

また、長崎大学のクリニカルクラークシップにてローテートしている大学6年生とも交流する機会があり、ドライボックスや糸の結紮の速さやクオリティを競うi-1グランプリ（iには糸itoのi、愛のiなど複数の意味を含み、商標登録されている歴史あるグランプリです）を見学させていただきました。何事にも積極的に参加し、ベッドサイドでもたくさん質問をして臨床に向き合っている学生の皆さんがi-1グランプリで競って外科手技を磨いている姿がとても印象的でした。

最後に、今回の研修に際しまして研修前からコンタクトをとっていただきまして、研修中もずっと気にかけてくださり、終始ご指導を賜りました曾山明彦先生に重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。臨床指導のみならず、江口教授のご許可のもと、論文作成の機会までもいただきまして大変光栄に存じます。現在執筆中ですが、熊本大学と長崎大学をつなぐ素晴らしい論文になれば幸甚に存じます。今回の2週間は大変短く感じましたが、とても内容の濃い、肝胆膵外科医として刺激的で有意義な時間となりました。この貴重な時間を糧に今後の外科人生に生かして参りたいと思います。

この研修報告を読んだことによって、日本臨床外科学会会員の皆様の中で、国内研修を志して、奮って応募し、素晴らしい外科人生の研鑽の一助になれば幸いです。是非ともこの素晴らしい制度を利用させていただきたいと思います。この度は誠にありがとうございました。

